

10. 中東

中東の日本語教育の状況

中東の機関数は82機関（前回（2018年度）調査比15.5%増）、教師数は203人（同15.3%増）、学習者数は6,030人（同21.9%増）で、いずれも増加しており、学習者数は前回調査に続き20%以上の増加となっている。なお、同地域ではイエメンとシリアで日本語教育の再開が確認された一方、オマーンでは日本語教育の実施が確認できなかった。

機関数が二桁を超えているのは前回調査ではトルコのみであったが、今回調査ではトルコ（40機関）、イスラエル（11機関）、アラブ首長国連邦（10機関）の3か国に増加している。教師数はトルコの97人が最も多く、次いでアラブ首長国連邦の28人、イスラエルの25人となっている。学習者数も同様にトルコが3,305人と地域全体の54.8%を占め、次いでイスラエルの753人、アラブ首長国連邦の598人の順となっている。

前回調査からの国ごとの増減をみると、機関数では

6か国で増加、4か国で同数、4か国で減少、教師数では7か国で増加、3か国で同数、4か国で減少、学習者数では8か国で増加、6か国で減少しており、いずれも増加した国が減少した国を上回る結果となっている。

学習者数の教育段階ごとの割合は初等教育7.0%、中等教育12.3%、高等教育52.4%、学校教育以外28.4%で、前回調査同様、主に大学等を中心に日本語教育が実施されているという特徴がみられる。

中東全体のオンライン授業実施率は90.2%と全世界の実施率（63.1%）と比べて非常に高く、9か国で100%という結果であった。

日本語学習の目的をみると、「アニメ・マンガ・J-POP・ファッション等への興味」が90.2%と最も高く、次いで「歴史・文学・芸術等への関心」と「日本語そのものへの興味」が81.7%で同率となっている。

表2-10-1 中東における機関数・教師数・学習者数

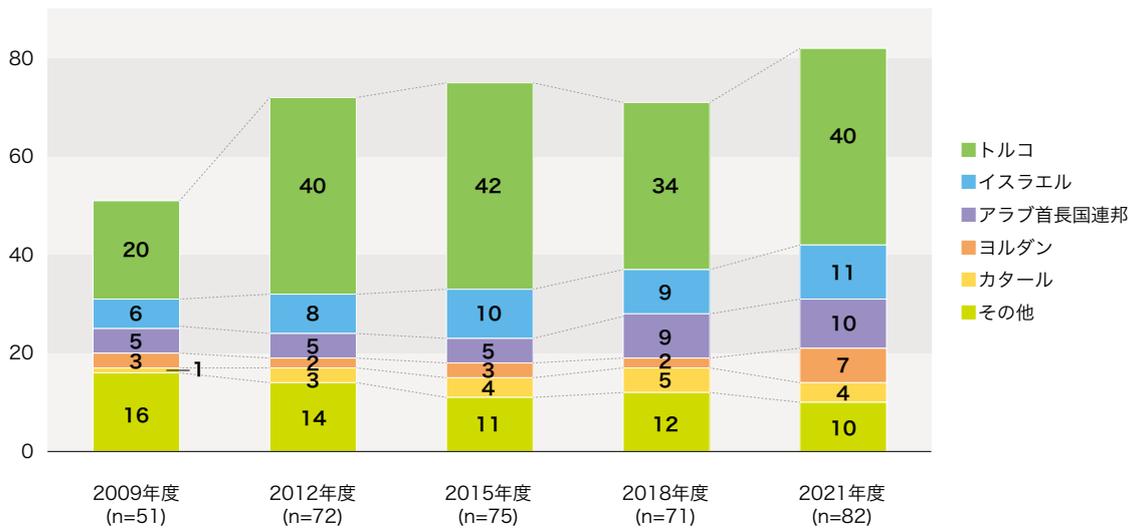
（2021年度の学習者数順）

国・地域	2021年度								人口 (人)	2018年度		
	機関 (機関)	教師 (人)	学習者 (人)	10万人あたりの学習者 (人)	教育段階の構成(学習者)(人)					機関 (機関)	教師 (人)	学習者 (人)
					初等教育	中等教育	高等教育	学校教育以外				
トルコ	40	97	3,305	4.4	0	362	2,224	719	74,526,000	34	85	2,500
イスラエル	11	25	753	10.2	0	0	381	372	7,412,180	9	16	491
アラブ首長国連邦	10	28	598	14.6	0	377	58	163	4,106,427	9	29	406
イラク	2	6	450	2.3	420	0	30	0	19,184,543	2	4	485
ヨルダン	7	12	299	3.1	0	0	225	74	9,531,712	2	3	250
クウェート	1	2	121	3.9	0	0	0	121	3,065,850	1	2	65
シリア	1	7	110	0.6	0	0	0	110	17,921,000	-	-	-
イラン	1	6	108	0.1	0	0	108	0	79,926,270	2	15	215
バーレーン	1	3	96	6.4	0	0	0	96	1,501,635	2	2	110
サウジアラビア	1	4	80	0.3	0	0	80	0	27,236,156	1	4	60
カタール	4	9	71	3.0	0	0	40	31	2,404,776	5	12	256
レバノン	2	2	25	0.7	0	0	15	10	3,779,859	2	2	35
イエメン	1	2	14	0.1	0	0	0	14	19,685,161	-	-	-
オマーン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	75
中東全体	82	203	6,030	-	420	739	3,161	1,710	-	71	176	4,948

※人口は国際連合発表のPopulation and Vital Statistics Report (as of 3 June 2022) より引用

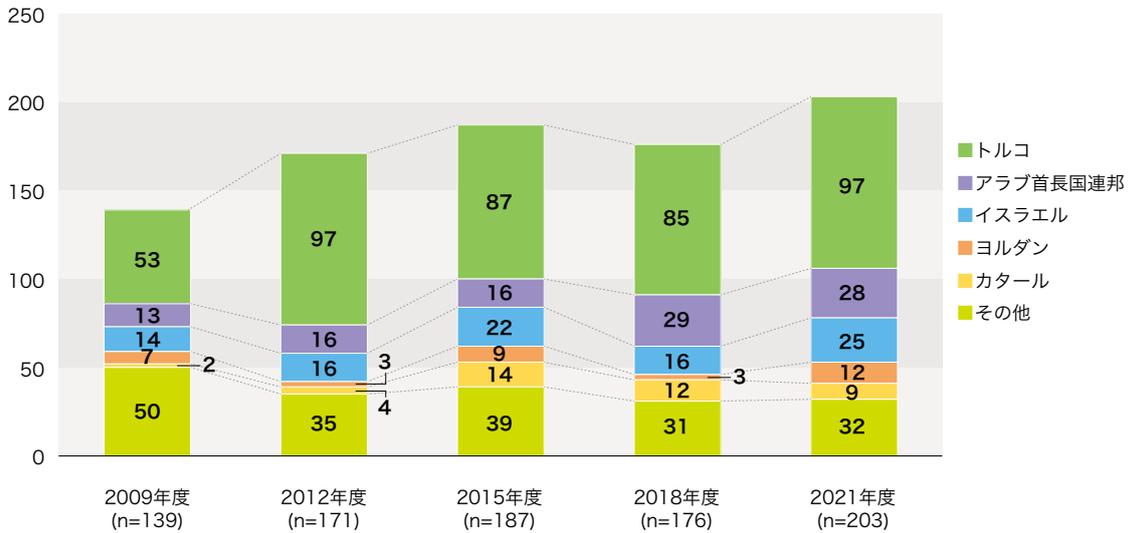
グラフ2-10-1 中東における機関数

(機関)



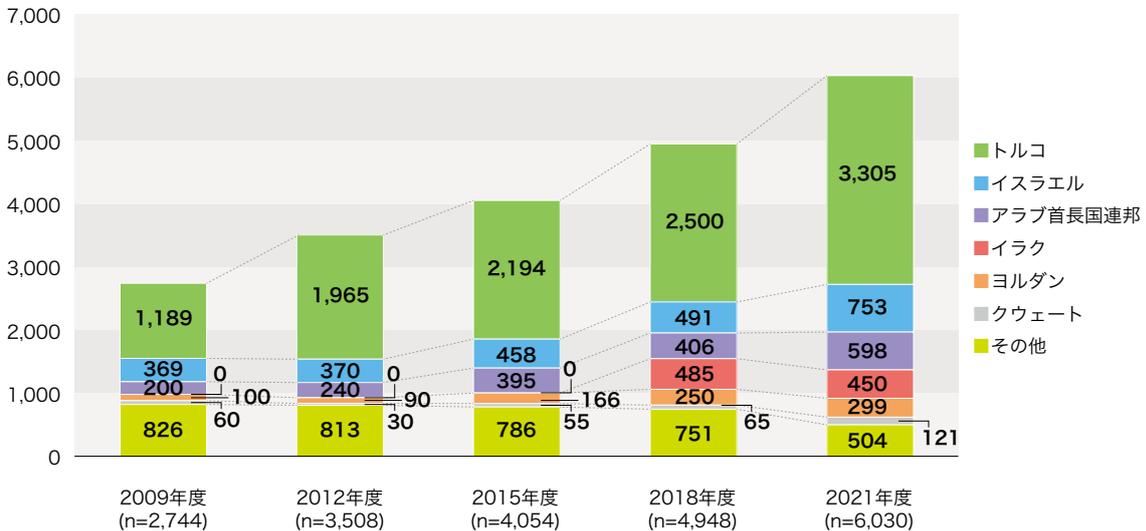
グラフ2-10-2 中東における教師数

(人)



グラフ2-10-3 中東における学習者数

(人)



グラフ2-10-4 中東における教育段階別学習者の割合

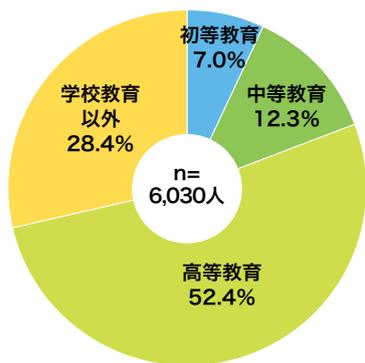
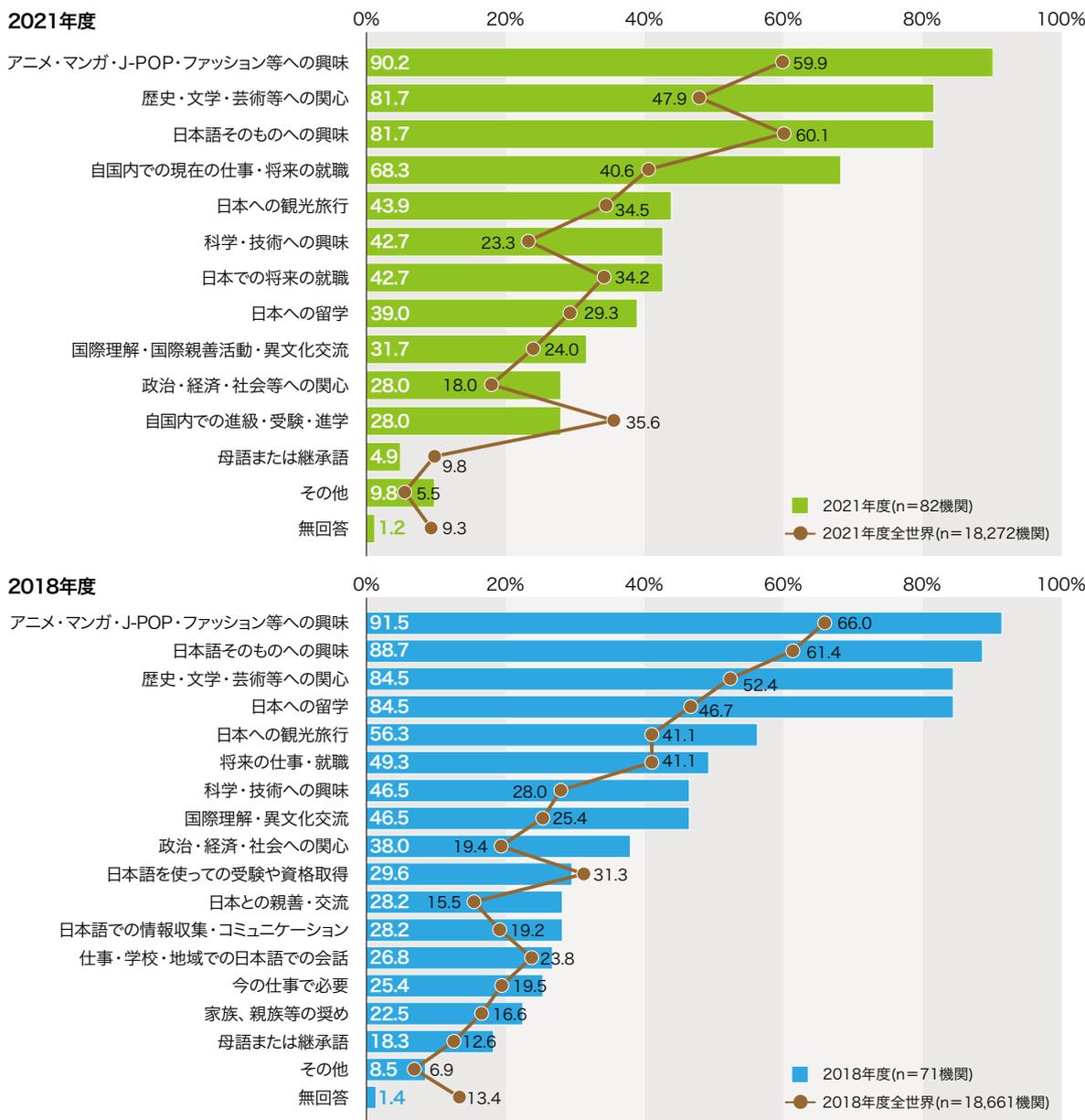


表2-10-2 中東におけるオンライン授業実施率

国・地域	国・地域 全体機関数	オンライン授業実施	
		(機関)	(%)
トルコ	40	35	87.5
イスラエル	11	10	90.9
アラブ首長国連邦	10	10	100.0
ヨルダン	7	7	100.0
カタール	4	4	100.0
イラク	2	2	100.0
レバノン	2	2	100.0
イエメン	1	0	0.0
イラン	1	1	100.0
クウェート	1	1	100.0
サウジアラビア	1	1	100.0
シリア	1	0	0.0
バーレーン	1	1	100.0
中東全体	82	74	90.2

グラフ2-10-5 中東における日本語学習の目的



各国・地域の動向

【トルコ】

トルコは歴史的に日本との繋がりが深く、親日的な感情が高いことから中東地域で最大規模の日本語教育が実施されてきた。今回調査においても、中東地域で日本語教育の実施が確認できた13か国全体の機関数82機関、教師数203人、学習者数6,030人のうち、それぞれ約5割となる40機関、97人、3,305人をトルコ一国が占めている。前回調査との比較でも、機関数17.6%、教師数14.1%、学習者数32.2%と、それぞれ増加している。学習者数の67.3%を占める高等教育、および21.8%を占める学校教育以外の機関では、コロナ禍でオンライン授業が普及したことにより受講費や地理的制約が弱まったことが、学習者数が増えた一因と考えられる。とりわけ高等教育においては、機関数(23機関)、教師数(57人)がともに前回調査数値と同様である一方、学習者数は1,788人から2,224人へ436人、24.4%と大幅に増加しており、オンライン授業実施機関が20機関(87.0%)と高い割合を示したことと関連していると推測される。

少数だが、中等教育(高校)において、国内から多数の成績優秀者を集め、政界、財界等にも幅広く人材を輩出する宗教指導者養成校のモデル校が、校長をはじめとする上層部のイニシアチブにより新たに日本語教育を開始し、同校を含め、3機関が新たに確認された。初等教育における日本語教育の実施は確認されていない。

【その他の国・地域】

アラブ首長国連邦では、2021年11月から新しく中等教育公立学校3校において日本語教育が開始されたことにより、前回調査より学習者数が47.3%増加した。他方、コロナ対策により、小学校から大学まで長らくオンライン授業が続き、調査時点で大学のジャパン・クラブ等のサークル活動は停滞している。

イスラエルは、中東地域ではトルコに次ぐ規模の学習者数を擁し、機関数、教師数、学習者数ともに増加している。

シリアでは2011年から続く紛争下で、不安定な治安状況や、教師等の人材の国外流出等により大学自体が機能不全となる状況にあった。同紛争が未だに終結をみせない一方で、治安に関しては数年前から大学等の高等教育が再開可能となる水準まで回復しており、今回調査でアレppo大学学術交流日本センターにおいて日本語教育の再開が確認された。

日本語教育が確認できなくなっていたイエメンにおいては、教師の確保に成功した民間の語学教育機関1機関において日本語コースの開始が確認された。

一方で、オマーンではこれまで2機関において日本語教育を実施してきたものの、コロナ禍の影響で日本語教師が不在となり、一時的に日本語講座の運営が停止状態となっている。